

# 和地ひとみレポート

**No.6**

尾崎新市長 所信表明

## 市民と行政が協働する市政の実現とは？



### ■ 新市長から市民に向けた初めてのメッセージ

…6月14日より開催されている第2回市議会定例会の初日、尾崎保夫新市長の所信表明がありました。

当日は約100名の市民の方が傍聴に訪れ、傍聴席では収まらず、別室にて音声のみを聞いていただくことになりました。(音響が悪く聞き取りづらい、せめて映像が欲しいとの声が多くありました。この件は「開かれた議会」を推し進めるうえで、今後の課題としていきたいと思えます)この傍聴人の数を見ても、新市長への期待、関心が大きいことがうかがえます。

…新市長が誕生してから約1カ月半ですが、公式の場で、市長の市政に対する考え方を市民に向けて表明するのは今回が初めてのことです。残念ながら、市のホームページの『平成23年度市長施政方針』には尾又前市長名のものがいまだに掲載されている状況です(6月19日時点)。市のトップ交代は市民にとっては非常に大きな出来事です。一般企業であれば、社長が交代したのにホームページ上の社長挨拶が変わらないなどということはありません。もし、今回の所信表明後まで発表できないという事情があったとしても、前市長の声明は削除し「準備中」などの事情説明のコメントを掲載すべきです。どんなに新市長が高い志と意欲で市政に臨むとしても、ホームページを見た市民は、少々白けてしまう・・・というのが、人の心というものではないかと、個人的には感じています。今後、市報などでも所信表明は配布されるかもしれませんが、すでに公の場で発表となっている「所信表明」ですので、今回、全文を掲載することにいたしました。

### ■ 具体的な政策、不足感

…今回の所信表明では「具体的なイメージ、案、政策」について触れられていることが少なく、翌日の各会派の代表質問においても、多くの会派より、その点についての質問が出ていました。具体案がなく、内容にも少々矛盾点などを感じるところもあり、また、実際に市長の政策が大きく動き出していないということで、所信表明に対して疑問に感じることは、どこか言葉尻を取っているのではないかと、私自身、自問自答することも多くありましたが民主党としても政策の具体案について質問しました。

…所信表明の中で多く述べられていた「財政が安定化するまで」「市民と行政が協働する市政」というキーワードについては、頷ける部分は大きいにあります。しかし「財政が安定化するまで」は「効率と選択」をもって「あれもこれも」から「あれかこれか」にしなければいけないと言われても、その選択の基準、安定化することの具体的な状態が示されなければ、なかなか理解や協力は得られないと考えます。また、もう一つのキーワード「市民と行政が協働する市政」については、もっと開かれた市政を早急に作らないと協働するところに達するのは困難ではないかと思えます。

…これからは、実際の政策と所信表明を照らし合わせることとなります。表明では具体的に示されなかった政策も、今後は実際の活動で具体的に示していただきたい。長年、積み重ねられたことを変えるのは大変ですが、新たな取り組みを着実に推し進めていただければ、市議会も役割を果たしていきたいと改めて思いました。

### 市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

### 「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思えます。」



東大和市 市議会議員

**和地 ひとみ**

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケット「つるかめランド」等を経営)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。/同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、東大和市議会議員1年生として、日々、奮闘中。

### ■ 連絡先 和地 ひとみ事務所

✉ wachi\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0003 東大和市狭山2-864-3-202

# 市長 所信表明

## ■ 尾崎保夫市長 所信表明

平成 23 年第 2 回定例会の開会にあたり、これからの市政運営に向けての基本姿勢と所信を申し述べます。

はじめに、私の市政運営の基本姿勢について申し上げます。

**第一点は、持続性のある行財政運営への転換と定着**であります。

今回の市長選挙にあたり、私は、「変えよう東大和」をキーワードとして、市民に分かりやすい透明な行財政運営、市長等の理事者の給与削減、市長車の廃止などを訴えてまいりました。これらは、厳しい財政状況の中で、より持続性のある行財政運営への転換・定着に視点を置いたものであり、そのための息の長い工夫が地域経営には必要であると考えます。

**第二点は、市民と行政が協働する市政の実現**であります。

今日の社会情勢の中にあっては、行政だけの努力でまちづくりを進めることは困難であります。そのため、市民と行政の協働により「夢のあるまちにしたい」という目標を掲げ、まちづくりの方向性を示してまいります。

**第三点は、厳しい財政の中での効率性と選択による市政の推進**であります。

夢のあるまちとするため、実現すべき課題が山積しております。しかし、厳しい財政状況の中では、「あれもこれも」は現実的ではなく、財政が安定するまでの間、効率性を重視し、市民サービスを十分に考慮した上で、「あれかこれか」という選択を迫られるのではないかと認識しております。詳細な分析を行い、今後のあり方についてご協議を頂きたいと考えております。

**第四点は、積み上げてきた資源の活用と市民参加の推進**であります。

東大和市は、北部に水と緑の豊かな環境を抱え、南部は住宅都市として、また鉄道とモノレールが接続する、居住環境と交通網がバランスよく発展しているまちであります。これらの資源を活用しながら、さらに充実、発展させるため、市民参加型の市政運営を進めたいと考えております。

**第五点は、震災に強い安心・安全なまちづくり**であります。

東日本大震災により、防災・安全対策が喫緊の課題となっております。このことから、大震災の教訓を活かし

た地域防災計画の徹底見直しを行うとともに、行政・関係機関・市民が結集して防災対策を進めてまいります。

以上、私の基本姿勢を申し上げました。市議会をはじめ市民の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。なお、当面する市行政の執行にあたりましては、平成 23 年第 1 回市議会定例会で可決されました平成 23 年度予算を基に、事業を推進してまいり所存であります。

本日の所信表明は、私が目指す任期 4 年間の総括的な方針ですが、具体的な施策は、年度ごとに明らかにしてまいります。

それでは、**夢のあるまちづくり**を目指しまして、**六つの柱から成る施策**を述べさせていただきます。

**■一つ目は、住みよい、活気のあるまちづくり**であります。

住んでよかったと実感できるまち、それは整備された居住環境とともに、日常生活の周辺が活気と思いやりに満ちていることであると思えます。そのため、居住環境に配慮した市街地整備を誘導するとともに、道路、公共下水道などの整備を着実に推進してまいります。道端に花が咲き、そこであいさつが交わされ、人と人のふれあいを感じることもできるようなまちを考えてまいります。

また、災害時の避難空間としての機能を備える農地を重視し、所有者との利用協定の締結を目指すとともに、農地の保全と後継者対策を実施してまいります。

なお、公共交通不便地域の解消を目的に運行しているコミュニティバスにつきましては、利便性の向上を図るため、検討を進めてまいります。

また、地域の活性化に向けては、農業・商工業各分野で知恵を生み出すことが求められています。商工業の経営支援、融資対策、高齢者への買い物支援、農業のブランド化、地産地消の推進、ウルトラ C グルメの開発、空き店舗対策など、様々な課題がありますが、アイデアや提案を結集して、具体的な施策にまとめて実施してまいります。

**■二つ目は、環境にやさしいまちづくり**であります。

東大和市の財産であります豊かな緑や水などの自然環境を活用し、住みよいまちづくりを進めてまいります。

そこで、市の北方に横たわる狭山丘陵、整備が進む空堀川、市の南限を画す野火止用水、その間に散在する貴重な都市空間である農地、これらを一体的に結びつけて、ウォーキングを楽しめるような自然環境を重視したまちづくりに取り組んでまいります。

なお、空堀川沿いの緑化につきましては、引き続き進めてまいります。また、農地の確保のために基金の創設を検討してまいります。東日本大震災で電力発電施設が被害を受けたことから、電力消費量の抑制が社会的な課題となっています。そのため、市役所をはじめ各公共施設で節電対策に積極的に取り組むとともに、市民や事業者に対しても節電への協力を呼び掛けてまいります。

環境に配慮した資源循環型社会の実現を目指すために、市民、事業者、行政が一体となっごみ減量の推進を図ってまいります。

**■三つ目は、福祉の行き渡ったまちづくり**であります。急速な少子・高齢化と社会環境の変化により、福祉には常に新たな展望とその実現が求められています。そこで、社会福祉協議会、NPO法人、地域ボランティアが一体となった協働の福祉システムの実現を図ってまいります。

高齢者や障害者のための福祉の拠点としての「(仮称)総合福祉センター」につきましては、そのあり方を検討してまいります。

また、子どもたちの笑顔があふれるよう、次代を担う子どもと子育て家庭を支援する次世代育成支援計画を推進してまいります。

**■四つ目は、地域力・教育力の向上**についてであります。

先人のご努力により、東大和市の教育は着実に進歩しております。しかし、35人学級及び教育施設の耐震化のさらなる推進、学校教育施設の建て替えなど、教育に関する諸課題が山積していることも事実であります。そのため、地域との連携も含め、教育効果を上げるための学校のあり方につきまして総合的に検討してまいります。

また、余裕教室の活用を含めた、学力向上、健全育成の方策につきましても具体的な検討を進めてまいります。

次に、幅広く蓄積されている市民の知恵を活かす場として、市民大学の創設を将来的な課題として検討してまいります。

男女共同参画についてであります。男女が平等で

共に参画できる社会の実現に向けて、第二次男女共同参画推進計画を推進してまいります。

次に、市民文化祭、ふれあい市民運動会、産業まつり、福祉祭など市を代表するイベントにつきましては、さらなる発展のため、そのあり方について総合的に検討してまいります。

郷土博物館では、歴史・民俗・自然及び天文に関する資料の保存・活用に加え、地域に伝わる伝統文化の継承と記録の整備を進めてまいります。市民の芸術文化活動のために、(仮称)郷土美術園を中心とした新たな芸術祭の開催を検討してまいります。

**■五つ目は、財政の健全化**についてであります。

地方交付税や国の地方財政対策に依存することなく財政運営を行うため、あらゆる努力を傾注して健全化を図ってまいります。市財政が、いかに厳しい状況にあっても、将来への対応を決して怠らず、社会的・経済的弱者への視点を失わないように努め、財政安定に向けての分かりやすい目標を設定して、市民の方々に明らかにしてまいります。

また、市が展開する各種事業の内容と経費を分析して、費用対効果が明らかに見えるような方法を検討してまいります。

**■六つ目は、市民とともに歩む市政運営**です。

市民本位の自治基本条例や常設型の住民投票条例を創設して、市民とともに歩む市政運営に努めてまいります。

また、市民や各種団体及び事業所等との意見交換を十分に行い、分かりやすい市政情報の共有化を市民と行政において図ってまいります。

厳しい財政状況のもとでも、市民サービスの低下をきたすことがないように、市民と行政が協働して市政運営を行う体制づくりを構築してまいります。

以上、私の所信表明について述べさせていただきました。8万4千人市民の福祉向上のために、自らがリーダーとして、真剣にかつ熱心に市政運営に取り組んでまいり覚悟であります。

重ねて、市民並びに市議会議員の皆様のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。市長就任の所信表明といたします。

※代表質問に対する市長答弁についても、今後、お知らせしていきます。